

◆授業設計のポイント◆

- ① 実生活と関連付けた課題設定の工夫
- ② 思考・判断・表現する場面における学び合いの活性化
- ③ 学習内容の構造図に基づいた到達目標問題の作成と活用

社会科学学習指導案（歴史的分野）

学 級 2年2組(男子21名・女子18名 計39名)

場 所 2年2組教室(2年校舎2階)

授業者 教 諭 前 田 明 宏

1 単 元 ヨーロッパ人との出会いと全国統一

2 単元について

本単元は、『中学校学習指導要領』歴史的分野内容(4)「近世の日本」のアと関連している。この時期の我が国では、織田・豊臣による統一事業及び江戸幕府による諸政策を通して生まれた安定した社会が、その後長く続いた。世界の歴史から見ても、長く平和が続いた希な時代である。十字軍の遠征をきっかけに、ヨーロッパではルネサンスが起り、宗教改革や新航路の発見が始まった。このような世界史の影響を受け、日本でも16世紀の中頃に鉄砲とキリスト教が伝わり、乱世の収束とヨーロッパ文化の流入につながっていった。大名や豪商の好みを反映した桃山文化や南蛮貿易によって広まった南蛮文化はこの時代の特色を象徴している。

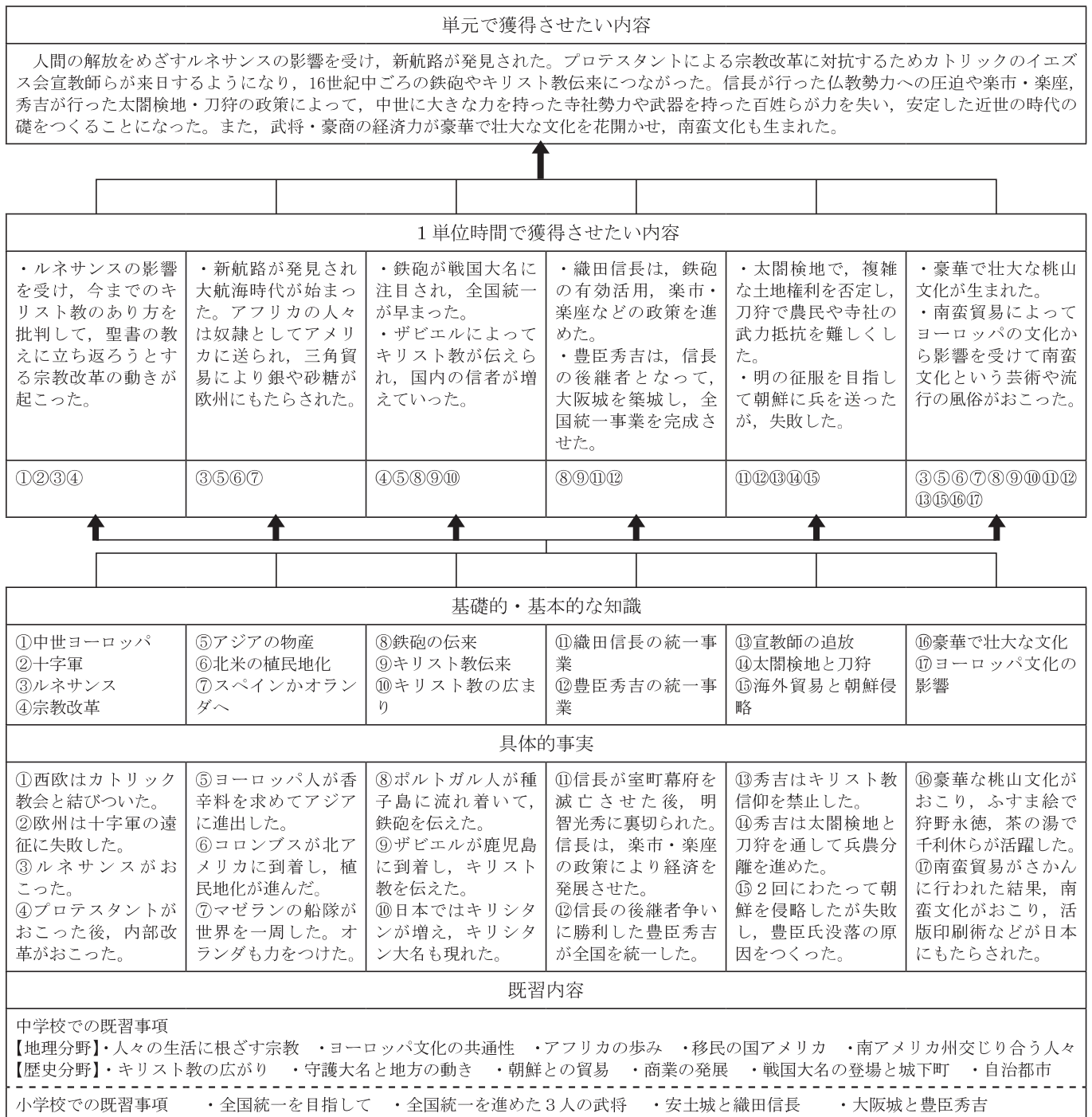
本学級の生徒は、落ち着いた雰囲気の中で授業を受けることはできるが、難易度が高い発問に対して自ら発表する姿勢はあと一歩である。自ら発表する生徒は限定的であり、消極的な生徒は自ら表現することを苦手としている。そこで、簡単な質問に対して元気よく発表させたり、普段の授業からペア学習やグループ学習を多く取り入れたりするなどの取り組みをしてきた。その一方、休み時間の間に電子黒板の準備を済ませ、教科書を開いて授業開始を待つ習慣がついてきており、ノートも素早くとることができるようになってきた。歴史的分野よりも地理的分野に関心をもっている生徒が多く、歴史の流れを大局的に捉える力は十分に育っていない。

本単元の指導にあたっては、ポルトガルやスペインによる新航路の開拓や宗教改革によるキリスト教世界の動きに伴って、鉄砲やキリスト教が伝来して南蛮貿易が盛んになり、それらが日本の社会に影響を与えたことを扱うようにする。織田・豊臣による統一事業については、織田信長が行った仏教勢力への圧迫や楽市・楽座、豊臣秀吉が行った太閤検地・刀狩によって、中世に大きな力を持った勢力が力を失ったことや、中世までとは異なる社会が生まれたことに気付かせる。また、当時の対外関係として、キリスト教への対応、朝鮮への出兵などを取り上げ、武将や豪商の気風や経済力を背景とした豪壮・豪華な文化が生み出されたことにも気付かせたい。さらに、鉄砲・キリスト教伝来、島津氏も参加した朝鮮出兵、薩摩焼の伝承など身近な生活と関連が深い単元でもあり、現在の日本の姿と照らし合わせながら安土桃山時代の出来事を考察させるなど、実生活との関連を意識した授業を展開していきたい。また、本単元の1時間目に単元を通した学習課題を設定し、到達目標問題を効果的に活用することで、単元の全体像を捉えさせながら授業を展開していきたい。そして、単元の見終時に自分とは異なる考えの級友と意見交換をすることによって思考をさらに深め、単元を通した学習課題のまとめにつなげていく。このような学び合いを重視していくことで、生徒一人一人の考えを深めさせ、よりよい社会形成のために参画する際の方法を提案する力を育てていければと考える。

3 単元の見目標

- (1) 戦国の動乱とその時期のヨーロッパ人の来航に対する関心を高め、意欲的に追究することができる。
(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 近世はどのようにして始まったのか、世界史や日本史の流れを大観して多面的に考察し、まとめることができる。
(社会的な思考・判断・表現)
- (3) ヨーロッパ人の来航、織田・豊臣による統一事業と、当時の対外関係や文化に関する情報を適切に読み取り、まとめることができる。
(資料活用の技能)
- (4) 織田・豊臣の時期の政治や社会の大きな変化と対外関係のあらまし、武将や豪商などの生活文化の展開を理解し、その知識を身に付けることができる。
(社会的事象についての知識・理解)

4 単元の「学習内容の構造図」



5 単元の指導計画（全7時間）

時	ねらい	学習課題	まとめ	留意点
単元の学習内容への関心を高め、単元を通じた学習課題を設定する段階				
1	キリスト教の広がりや宗教改革などによって、ヨーロッパや西アジアで起きた動きの概略を理解することができる。	イスラム教の広がりや宗教改革によって、キリスト教世界はどのように変化したのだろうか。	十字軍の遠征の影響からルネサンスや宗教改革が起こり、今までのキリスト教のあり方を批判して聖書の教えに立ち返り、人間の解放を求める動きが強まった。	単元を通じた学習課題を確認する。
ヨーロッパ人の新航路の発見と鉄砲やキリスト教の伝来を関連付けておさえる段階				
2	ヨーロッパ人が新航路を開いた目的を、おもにヨーロッパとアジアの関係から考えることができる。	ヨーロッパ人はどのように世界に進出していったのだろうか。	オスマン帝国の繁栄と地球球体説の定着がヨーロッパ人の新航路の発見につながった。香辛料を求めて世界に進出した結果、香辛料だけではなく銀や砂糖がヨーロッパにもたらされた。	前時と関連付けて大航海時代を捉えさせる。
3	この時代に伝わった鉄砲とキリスト教が、日本の社会に広まった理由を考えることができる。	ヨーロッパ人の来航によって、日本はどのように変わったのだろうか。	鉄砲の伝来により、全国統一の動きが早まり、南蛮貿易の発展にともない、キリシタン大名などの信者が増えていった。	郷土に関する話題を多く提供する。
織田信長と豊臣秀吉の経済・宗教政策が中世を終わらせ、近世の枠組みを作ったことをおさえる段階				
4	織田信長と豊臣秀吉の統一事業の過程を、その経済政策、宗教政策などと関連させながら理解することができる。	織田信長と豊臣秀吉は、どのように全国統一を進めたのだろうか。	織田信長は、抵抗する仏教勢力に厳しい態度で臨み、鉄砲を有効に使い、商工業を発展させて勢力を広めた。豊臣秀吉は、信長の後継者となって大阪城を築城し、朝廷から関白に任命されて、全国統一事業を完成させた。	既存の知識を活用し、関心を高めさせる。
5	太閤検地と刀狩によって、それまでとどのような点で異なった社会が生まれたのかを考えることができる。	豊臣秀吉は、国内でどのような政策をとり、どのような対外関係を持ったのだろうか。	豊臣秀吉は、国内では太閤検地によって農民の土地の所有権を認め、米の収穫量を石高で表した。また、刀狩で農民や寺院から刀や槍を取り上げ、武力で抵抗できないようにした。海外では明の征服をめざして朝鮮に兵を送ったが、義兵などの抵抗を受けて失敗した。	兵農分離が近世社会を形成する視点をもたせる。
6	桃山文化の特色を建築・絵画・芸能などから理解し、その特色が生まれた理由を考えることができる。	安土桃山時代の文化は、どのような特色を持っていたのだろうか。	大名や豪商の好みを反映した豪華で壮大な桃山文化が栄え、南蛮貿易によってヨーロッパ文化の影響を受けた南蛮文化も後世に影響を与えた。	薩摩焼など身近な話題に触れる。
単元を通して学習した全ての内容を活用して、単元を通じた学習課題を解決する段階				
7	近世はどのように始まったのか。時代の流れを大観してまとめることができる。 (本時)	日本における近世は、どのようにして創られたのだろうか。	宗教改革、新航路の発見の影響から鉄砲とキリスト教が日本に伝わり、鉄砲の普及が全国統一を加速させ、信長が行った仏教勢力への弾圧や楽市・楽座、秀吉が行った太閤検地・刀狩などによって中世に大きな力を持った寺社勢力や武器を持つ百姓らが勢力を失い、安定した近世の礎がつけられた。	既習の学習を活用し、根拠を基に考え、交流を深める。

6 単元における評価規準

社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
政治・経済・外交・文化などの面で活躍した人物に関する関心を高め、その生涯や業績を調べている。	近世社会の成立とその後の社会の変化や政治の展開から、近世社会はどのように始まったのか世界史と関連付け、キーワードをもとに多面的に考察し、公正に判断している。	近世社会の成立とその後の変化や政治の展開に関する史料、地図など様々な資料を収集するとともに、教師から提示されたプレゼン資料の特色を適切に把握している。	近世社会の成立とその後の社会の変化や政治の展開を、日本の歴史と関わる世界の歴史を背景に理解し、その知識を身に付けている。

7 到達目標問題

問 題	解答例
<p>1 16世紀の中頃に、鉄砲やキリスト教が日本に伝来したのはどうしてだろうか。世界史の視点を踏まえ、次の語句を使って説明しなさい。</p> <p>語句【宗教改革 プロテスタント カトリック 新航路の発見】</p>	<p>新航路の発見によって、ヨーロッパ人が香辛料を求めてアジアに進出してきた。特にポルトガル人はバスコ・ダ・ガマが開拓したルートを活用して積極的に通商を求め、偶発的ではあったが鉄砲伝来へとつながった。また、宗教改革によってヨーロッパで信者を増やしていたプロテスタントに対抗し、カトリックのイエズス会が海外での信者を獲得するため、布教活動に力を入れていたため、キリスト教の伝来にもつながった。</p> <p style="text-align: right;">※ 3時間目に活用</p>
<p>2 16世紀の中頃以降に、これまでにはない新しい時代の匂いが感じられる出来事はなかっただろうか。その出来事を用語で答えよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヨーロッパの宗教改革 ・ 鉄砲伝来 ・ 仏教勢力への圧迫 ・ 楽市・楽座 ・ 太閤検地 ・ 刀狩 <p style="text-align: right;">※ 7時間目（本時）に活用</p>

8 本時の実際（7／7）

(1) 題材 「ヨーロッパ人との出会いと全国統一」

(2) 目標 近世はどのように始まったのか、時代の流れを大観してまとめることができる。

(社会的な思考・判断・表現)

(3) 授業設計の工夫

ア 実生活と関連付けた課題設定の工夫

30年前の中学校歴史教科書と人気時代ドラマの画像を見せることで、身近な生活と歴史は深い関わりがあることを意識させ、本時の学習内容への関心を高めさせたい。また、中世から近世へと時代が変化するきっかけとなった出来事について歴史を大観させ、現在、身の回りで起こっている出来事も、時代の大きな変化の転換点に成り得ることを意識させたい。

イ 思考・判断・表現する場面における学び合いの活性化

近世が始まるきっかけとなる出来事は何だったのか考え、その根拠についてまとめる活動は、思考力が高まっていない生徒にとって答えを導き難い活動なので、4～5名のグループをつくり、知恵を出し合いながら学習を進めていく。また、グループでまとめた内容をグルーピングする活動も生徒自身に行わせる。グループで考えを深め、改めて自分自身の考えをまとめ直したり、終末で今後練り直していきたい内容について考えたりすることで個の考えを深めさせていきたい。

ウ 学習内容の構造図に基づいた到達目標問題の作成と活用

本単元を学習する前に学習内容の構造図をまとめ、生徒に定着させたい学習内容を明確にした。その上で、単元の3時間目に到達目標問題1を解かせ、宗教改革などの世界史の影響を受け、日本に鉄砲やキリスト教が伝来したことを理解させたい。さらに、本時で到達目標問題2を解き、近世の始まりに関連する用語を整理させ、単元を通した学習課題のまとめにつなげていきたい。学習内容の構造図に基づいて到達目標問題を設定することで、教師が生徒に身に付けさせたい力を十分に意識して単元の指導計画や教材研究に臨むことができると考える。

(4) 展開

○ 第7時

過程	時間	形態	学習活動	○指導上の留意点 ◎評価 ※授業のポイント
導入	5分	一斉	1 安土桃山時代は本当に近世なのか考える。 2 学習課題を確認する。 [学習課題] <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;"> 日本における近世はどのようにして創られたのだろうか。 </div>	○ 30年前の中学校歴史教科書の記述を紹介する。 ○ 人気ドラマの画像を見せ、時代の流れに関心をもたせる。 ○ 現在の出来事にも時代の転換点となりうる出来事があることを意識させる。 ※ 実生活と関連付けた課題設定の工夫
展開	8分	個別	3 16世紀の中頃以降、これまでにない新しい時代の匂いが感じられる出来事がなかったか考え、発表する。 (到達目標問題2)	○ まずは個人で考え、その後ペアで意見交換を行う。 ○ 宗教改革、鉄砲伝来、仏教勢力への圧迫、楽市・楽座、太閤検地、刀狩などの視点をもたせる。 ※ 学習内容の構造図に基づいた到達目標問題の効果的な活用
	15分	グループ	4 その出来事が、どうして新しい時代の始まりにつながったのか、その根拠について考え、発表する。	○ 1班1つの出来事について根拠を考える。 ○ 各班ホワイトボードにまとめて黒板に掲示させた後、気になる発表内容の班を生徒に選ばせ、選ばれた班の代表者にホワイトボードの内容を詳しく発表させる。 ※ 思考・判断・表現する場面における学び合いの活性化 ◎ 根拠を基に個で考え、他者と意見交換をする中で個の考えを深めることができたか。
	5分	一斉	5 掲示されたホワイトボードを、同じ内容のものにグルーピングする。	○ 生徒自身の意見を活用してグルーピングする。
	7分	個別	6 グルーピングされたものに共通している特色は何なのか考える。	○ 権力の統一、土地の権利の確定、兵農分離、経済の自由化に焦点を絞る。 ○ 生徒が考えた新しい時代の特色が近世の特色であることに気づかせる。
終末	10分	個別	7 学習課題に対する自分の考えをまとめ、発表する。	○ ヒントカードを活用し、個別の支援を行う。
			<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px auto;"> 新航路の発見、宗教改革の影響から16世紀中頃に鉄砲が日本に伝わり、鉄砲の普及が全国統一を加速させ、権力の統一が早まった。楽市・楽座により経済の自由化、太閤検地・刀狩によって兵農分離が進み、土地の権利も確定した。中世に大きな力を持った寺社勢力や武器を持つ百姓らが力を失い、安定した近世の時代がつけられた。 </div>	
			8 徳川家康の登場によって、時代はさらにどのように変化するのか考える。	○ 深入りはしないで、この時代の興味が今後さらに高まるように支援する。